



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

会員総数……………842人
 医師……………164人
 コメディカル……………683人
 【管理栄養士紹介登録数 45人】
 平成22年8月20日現在

《目次》

- ◆「～残暑お見舞い申し上げます～」 小柳 貴子先生…Page 1
- ◆研究会の実施報告
 「平成22年度西東京療養指導プログラム」……………Page 2-3
- ◆研究会のお知らせ他……………Page 4



～残暑お見舞い申し上げます～

当会評議員 武蔵村山病院 小柳 貴子

今年の夏は連日のように、各地における最高気温の記録更新とともに熱中症による救急搬送患者の情報が報道されています。9月に入ってもまだしばらく続くと予想されているこの猛暑の影響はどこまで続くのでしょうか。

東京消防庁によると東京都内で熱中症により救急搬送された方は、8月1日から18日までで1000人を超したとのこと。屋内での熱中症や夜中に死亡しているケースもあり、高齢者や独居の方が多数を占めているようです。糖尿病外来の患者さんからも「水分はこまめに摂るようにしています」という言葉が聞かれるなどマスコミ各種PRによる効果を実感する反面、スポーツドリンクの多飲や「クエン酸がいいのでお茶の代わりに梅ジュースを飲んでます」などという方もいて、セルフケアの格差が大きい現状が窺えます。

糖尿病と同様に熱中症においても高齢者などは初期症状を自覚できないことが多く、熱中症が重症化してしまうことがあります。さらに高齢で罹病期間の長い糖尿病患者さんでは、常日頃より神経障害としての発汗やしびれを有する状態で生活されているため、熱中症特有の症状を認識しにくく重症化しやすいと考えられます。症状だけでなく生活状況なども鑑みて対処方法を患者さんと一緒に考えていくことが私たち療養指導士の大切な役割だと改めて実感する毎日です。

昨年の秋には、ペットボトル症候群で受診した若い糖尿病患者さんが数名いらっしゃいました。いずれも屋外で働く男性患者さん。熱中症予防としてスポーツドリンクを2～3ℓ/日飲むなど、喉の渇きが高血糖によるものとは思わず自分なりの対処方法が病状を悪化させてしていました。糖尿病や熱中症などの対応については、家族や職場の同僚の経験から注意喚起されるケースも多く、正しい情報だけでなく身近な体験や経験者の言葉が加わると、他人事ではなくご自分に引き寄せて考えやすくなり、予防行為や対処行動もより積極的に実施されやすいため、私たち医療従事者からも多くの経験談をお伝えできるよう努めていきたいものです。

外来受診している患者さんとの会話からは、予想もつかない“涼”の取り方や工夫に驚くことが多く楽しく学ばせていただいています。医療従事者として患者さんの「こんなはずじゃなかった」という事態を回避できるよう、もうしばらくはこの残暑とうまく付き合っていくヒントを集めてひとりでも多くの患者さんにお伝えできればと思っています。みまさま、残暑お見舞い申し上げます。

平成22年度 西東京糖尿病療養指導プログラム報告

平成22年7月18日(日) 拓殖大学八王子キャンパスにて開催されました。



第7回 西東京薬剤研修会

当体会員 杏林大学医学部附属病院 小林 庸子

第7回薬剤研修会は、「インスリン注射」と「血糖測定」をテーマに開催されました。午前の部ではまず、「インスリン注射のインシデント」について、公立昭和病院の本田一春先生と東京都健康長寿医療センターの深野光司先生より薬剤師が体験するインスリンのインシデントについて、それぞれ講演されました。その後、当日参加の皆様を交えたパネルディスカッションでした。当初は会場の皆様からご意見を頂くことはできるか、との不安もありましたが活発な意見交換会となり、様々な情報を共有することができ有意義な時間だったと思います。講演①は、「薬剤師が知っておきたい知識【持続皮下血糖測定：CGM】」を北里研究所病院の井上岳先生にご講演いただきました。近年国内でも承認され多くの医療機関でも利用され始めました。測定原理、測定方法や測定結果の見方を分かりやすく解説していただきました。講演②は、「薬剤師に知ってほしいCSIIの知識」をウラン薬局の森貴幸先生にご講演いただきました。使用するインスリンの種類、ポンプの使用法、更に使用患者に対するアンケート結果を紹介していただきました。機器の装着方法に関しては、実際の写真のご提示もあり大変分かりやすい内容でした。午後の部は、今年のインスリンデバイス体験に引き続き「SMBG体験」でした。機器メーカーにもご協力いただき、販売されている中から形態の異なる3機種を参加者全員に体験していただきました。また他の3機種は使用方法の解説でした。多数の機種を体験することで、それぞれの機種の特徴や患者さんの苦痛が多少でも理解出来たのではないかと思います。



第7回 西東京病態栄養研修会

当体会員 東京医科大学八王子医療センター 深谷 祥子

暑い夏の空のもと緑豊かな拓殖大学のキャンパスにて145名の方が栄養系に参加されました。

午前の部は最近注目されている時間栄養学をテーマに、植木彬夫先生(八王子医療センター教授)に、時計遺伝子などの概念を踏まえて、概日リズムと食事が心身の活動リズムとどのように関連しているのかをハイテクスライドを駆使して分かりやすくご教授いただきました。その後西村一弘先生(緑風荘病院)に生活スタイルを考慮した食事や服薬について、福元敦子先生(八王子医療センター)に間食のタイミングや選び方、原純也先生(多摩丘陵病院)に朝食の必要性について



の事例提示後に、植木先生を交えフロアとのディスカッションを行いました。

午後の部はカーボカウントについて、高橋徳江先生(順天堂大学)より、患者さんの行動変遷を考慮しながら、食事バランスガイドを用いたカーボカウント法の導入に至るまでの過程を分かりやすくご教示いただきました。その後、1型糖尿病である遠藤伸司氏からご自身が実際に行っているカーボカウントの実践的な方法について、内田せつこ先生(勝和会病院)から2型糖尿病患者さんにカーボカウントを取り入れた症例を発表していただきました。パネルディスカッションではカーボカウントを栄養指導に活用するためのについて活発な意見交換が行われました。皆さまのご意見からカーボカウントはとかく炭水化物に目が行きがちですが、他との食事バランスを考慮しながら指導していくことが重要だと痛感致しました。

第7回 西東京糖尿病教育看護研修会



大会評議員 東京医科大学八王子医療センター 松尾 美穂

7月18日、日曜日、晴天の中、拓殖大学八王子キャンパスにおいて「第7回 西東京糖尿病教育看護研修会」が開催されました。看護系は今年も191名の熱心な参加者が会場を埋め尽くしました。今年「合併症患者への支援」をテーマとしました。第1部は実際の現場で看護の実践を行っている先生を講師に迎え～各合併症における実践者の取り組み～と題し、3名の先生から発表して頂きました。



眼合併症患者への支援では国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院の入澤先生より実際の事例を提示され、視力を失っても他の感覚を最大限に利用し患者が自ら出来ることを探ることが有効である。と話されました。刈谷豊田総合病院の石本先生は、罹患歴の長い患者様を点ではなく線でみることの大切さ、杏林大学医学部付属病院の森先生は、神経障害患者に対して仕方がないと諦めないで一緒に考え実践していくことが必要であると話されました。3名の先生方の思考錯誤しながらも看護実践を行っているお話に多くのヒントを頂きました。第2部では、東京医科大学八王子医療センター医療情報室長の植木先生が合併症患者の関わり方と題し、糖尿病に起因する合併症はその患者の生活や人生そのものを変えてしまっていることを患者と共に感じ介入していかなければならないことを話して頂きました。社会保険看護研修センターの大原先生は、合併症が糖尿病患者に与える影響と看護援助について合併症を持つ糖尿病患者は身体的、心理的、社会的にどのような変化や影響を及ぼすのかについて話して頂きました。全体を通して患者さんに何らかの変化が生じた時は患者さんと一緒に生活を考え直す機会であり、患者様と共に諦めないで考える姿勢が大事であることを学びました。開催におきましてご尽力頂いた貴田岡先生、共催の日本糖尿病教育・看護協会様に深くお礼申し上げます。



清野裕先生特別講演(合同プログラム)

大会理事 緑風荘病院 西村 一弘

3領域合同講義では、心理ケアと糖尿病のお話と題しクリスタルトークンファミリーカウンセリングの前田先生がご自身の1型を発症した時のお話と心理について述べられた。前田先生の持つ不思議な雰囲気に参加者一同引き込まれ心理という形がなく漠然としたものが少し身近に感じられるようになりました。



インクレチン元年というべきエポックメイキングな年であり、合同プログラムの特別講演として、インクレチンの研究において日本のみならず、世界をリードしてきた関西電力病院院長の清野裕先生に、お話しを賜りました。清野先生には、御講演の中でインクレチンについて基本的な話から、様々なインクレチン関連薬の特徴に至るまで、最新の知見と考え方をまじえて詳細にお示しいただきました。また、日本糖尿病学会の診断基準の改定も中心的に行ってこられた先生ですので、今年の5月に行われた日本糖尿病学会学術集會にて公示された、新しい診断基準やHbA1cの今後の扱いについても、丁寧に分かりやすく御講演いただきました。受講者にとっては、とても実り多い御講演で一同深く感銘を受けました。



研究会他のお知らせ

直接事業
 間接事業
 その他

◆ TAMA生活習慣病フォーラム (※お申し込みが必要です)

開催日：平成22年9月18日(土)

場所：調布文化会館たづくり12階「大会議場」(京王線調布駅下車徒歩3分)

参加費：500円

申込み：同封の申込用紙にご記入のうえFAXにてお申込み下さい。

FAX番号：042-362-1602(ノボノルディスクファーマ(株)小澤宛)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位

◆ 第4回西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー (※お申し込みが必要です)

開催日：平成22年10月2日(土)～10月3日(日) 1泊2日

場所：高尾の森わくわくビレッジ(JR中央線・京王線 高尾駅下車 バス14分)

参加費：18,000円(宿泊費・4食費込み)

申込み：同封の申込用紙にご記入のうえFAXにてお申込み下さい。

FAX番号：042-322-7478(西東京臨床糖尿病研究会 事務局宛)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位(申請中)

☆健康運動指導士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位：
講義5.0単位, 実技3.0単位(予定)(申請中)

◆ 第21回武蔵野糖尿病医療連携の会 (※お申し込みは不要です)

テーマ：インクレチン関連薬との上手な付き合い方

開催日：平成22年10月23日(土) 17:00～19:00

場所：ザ・クレストホテル立川 4階 「桜の間」

参加費：医師1,000円 医師以外500円

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位(申請中)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日医生涯教育制度：2単位(申請中)(カリキュラムコード5.10.15.76)

□ 第11回糖尿病予防講演会 (※お申し込みは不要です)

テーマ：糖尿病の治療はどのように変わるか?

開催日：平成22年10月30日(土) 14:00～17:35

場所：前進座劇場(JR中央線・京王井の頭線 吉祥寺駅下車 徒歩12分)

参加費：無料

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位(申請中)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

★事務局からのお願い

今年度の年会費のお払込がお済でない方は、お振込用紙の期限が6月末となっておりますが、まだお振込可能ですので、ぜひお早めに最寄りのコンビニエンスストアにてお振り込みをお願い申し上げます。

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局

〒185-0012 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802号

TEL：042(322)7468 FAX：042(322)7478